

# この花

第76号

発行所  
 此花区老人クラブ連合会  
 〒554-0014  
 大阪市此花区四貫島1-1-18  
 (大阪市立此花区老人福祉センター内)  
 電話 06-6463-4157  
 発行人 金澤房三  
 編集人 東山厚志  
 編集協力 株博報社  
 〒547-0026  
 大阪市平野区喜連西4-6-69  
 電話 06-6797-0381



西九条公園(梅めじろ)

撮影 藤木 一之さま (伝法老人クラブ喜寿会)

## ごあいさつ

此花区老人クラブ連合会  
 会長 金澤 房三



連合会会長を拝命致しました令和4年4月より、はや半年の月日がたちました。季節の移り変わりに感じる自然の様子「樹木の緑、美しい花々、青い空」に心を動かす時間より、コロナ禍の続く日々を過ごしながら「明けない夜はない！」を信じて今日を迎えています。会員の皆さまには、お一人お一人のご努力、ご精進によりご自身ご家族のご健康を守り抜き、今日をお迎えのことと拝察しております。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大以後「自分本位な行動や競い合いよりも他者と支え合う道を求めなければならない」と読みました。その鍵となるのは「つながり」であります。厳しいコロナ禍の中で、遠く離れている人々のことで胸が痛むことがあるのは、見えない「つながり」を感じているからです。

今夏の高校野球、甲子園にて初優勝、仙台育英高校須江監督の優勝インタビューの最後には、「コロナ禍で入学以来制約を受け続けた3年生を気遣い『全国の高校生に拍手してもらえたら』」、「言葉に人柄がにじんだ」と新聞記事にあり、まことの「他者」を思い、「つながり」であると思えました。

老人クラブの大切な目標は「人と人とのつながり」であります。目と目を見つめ合い、会話をして相手の言葉を耳でしっかり聞く。そこに心に通じる人間関係が生まれ、「つながり」が生まれます。新型コロナウイルスの感染拡大から約3年が過ぎ、老人クラブ活動の出口戦略はどうあるべきか? 「すぐに活動をフルに行うべきか」「もう少し慎重に」という意見をも鑑みながら活動、行事への取り組みを考え、今一度以前の「大切なもの」を取り戻すために、みんなで一層の努力をと思っております。

終わりになりましたが、此花区老人クラブ連合会会員ご一同様のご健康を心より祈念申し上げ、会の発展のためご支援、ご協力をお願い申し上げます。

後記「心にぎざまれた一文」

「いのちは続いていく つながりながら」

「今という時を大切に、日々生きることを楽しみながら」

生命誌研究者 中村 桂子氏